



看護・医療福祉研究部門

文部科学省選定 広島文化学園 研究ブランディング事業

認知症カフェ第3回「あがりんさい」

—災害の備え・不安、秋・お彼岸—

1. 日時:平成29年9月30日(土)

2. 場 所 呉市阿賀集会所

3. プログラム

オープニング ウクレレバンド 演奏: 7曲

ハワイアンと懐かしのメロディー

故郷の曲に合わせて 合唱

テーマ:「秋・お彼岸」「認知症になっても住み慣れた地域で共に暮らすために」

1) 回想コミュニケーション:「秋・お彼岸」を題材に交流

2) ゆる〜りワーク:災害の備え、不安など

3) 健康測定: 健康調査 血圧、握力、体重、認知機能

4) 参加者49名

<一般参加者>

老人クラブ会長、呉市社会福祉協議会 認知症の人と家族の会、

地域:阿賀、呉、安浦から 22名

<サポーター>

教員:土肥敏博教授、加藤重子教授、林君江准教授、風間栄子講師、岡田京子助教、
高橋登志枝講師

学生:認知症看護強化コース3年生8名、老年看護援助論I2年生13名、

教員6名

5. 概要

9月は、アルツハイマー月間であり、全国で認知症に関することをテーマに行事や研修が行われています。本学でも、老人クラブ、いきいきサロンのひよこ塾と4回認知症サポーター研修を開催しました。少しずつ、認知症の理解の輪が広がってきています。

オープニングは、ハワイアンバンドの音楽にうっとり魅了され音楽に合わせ、自然と体が揺れ、演奏の最後には、いつものようにふるさとを合唱しました。

健康調査は、前回の要望であった骨密度測定を実施し教員による説明も加えました。

今回のカフェのテーマは、「秋・お彼岸」、ゆる〜りワーク「認知症になっても住み慣れた地域で暮らすために」～災害の備え・不安～について皆さんで考えましょう。とスタート。「秋・お彼岸」をテーマにお団子と抹茶を召し上がりながら、自己紹介や回想コミュニケーションを楽しんでいた、どのテーブルも話の花が咲きました。

カフェの後半は、学生がファシリテーターを務め、「災害の備え・不安」について、テーブルごとに意見を出し合いました。参加者の意見をまとめて学生が発表しました。

「もう逃げない。足手まといになりたくない。」「誰かが来てくれるだろう。」と様々な思いを抱いていることをじっくりうかがうことができました。

日頃から、かかわりあってなじみの関係をつくっていく必要性を感じました。

学生と触れ合ったり、一緒に学びあうことが楽しみになっていると参加者より、言葉をいただきました。

6. カフェの様子



懐かしいメロディーに参加者も歌いだす



バンド「ハワイコールズ」の皆さん



要望を聴取



皆さんから出た、意見ラベルを構造化



ファシリテーターによるグループ発表



本当にうれしいと握手を求められ



接近して話に花が咲く



土肥先生による恒例の小話



